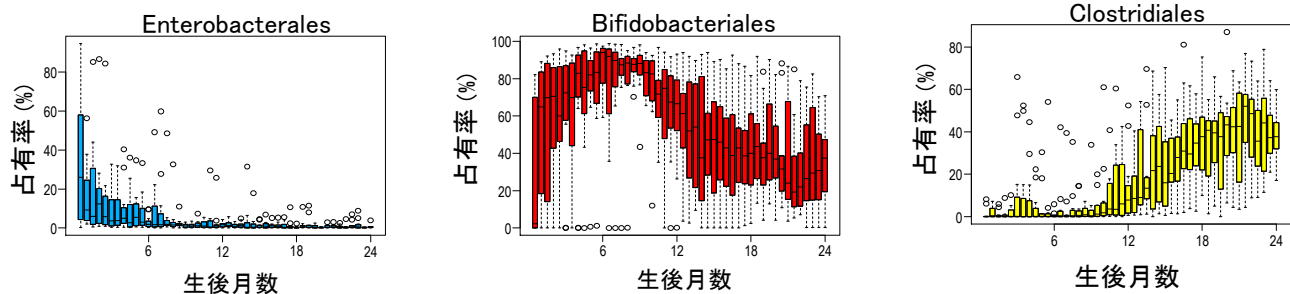
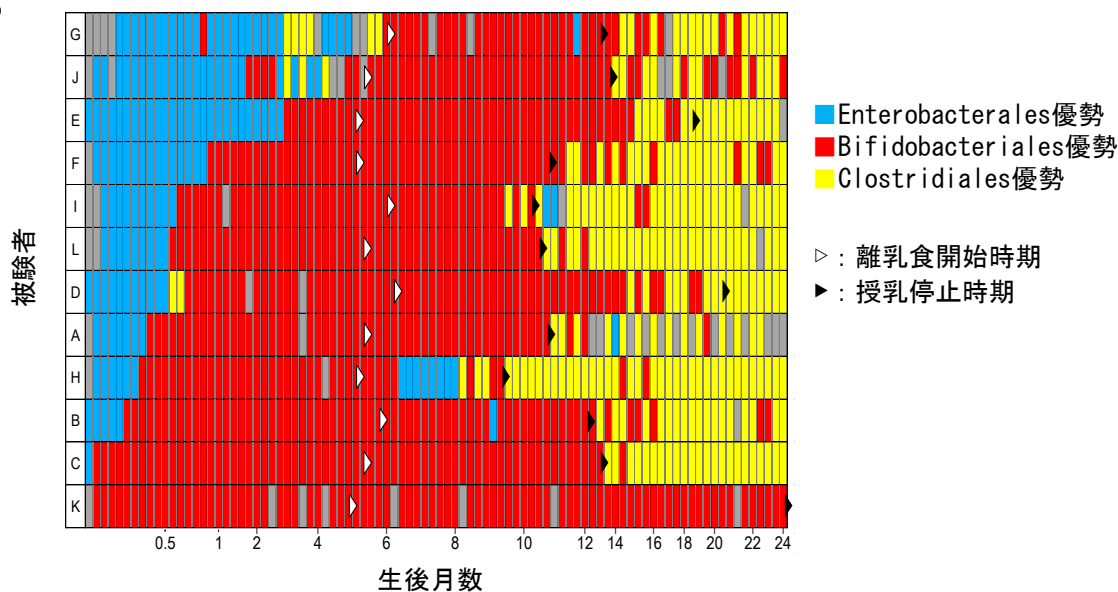


A

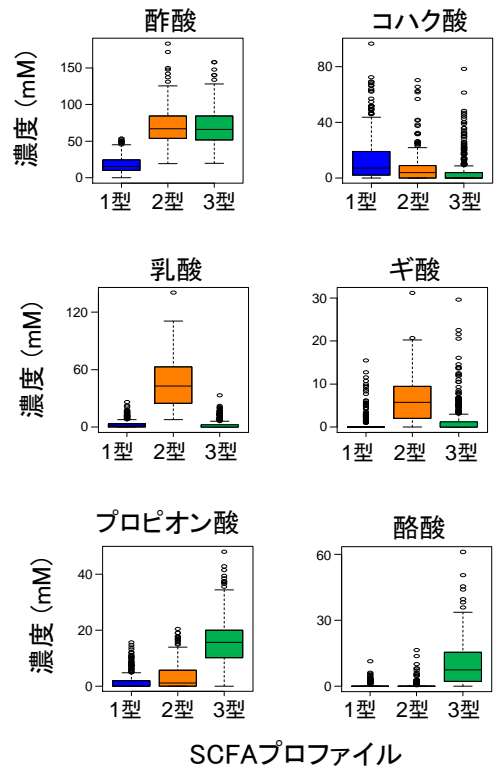
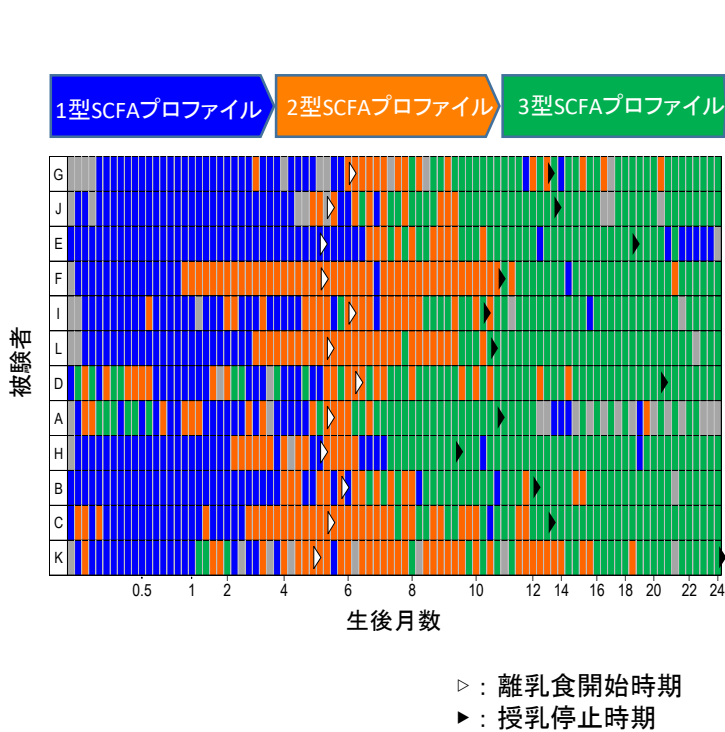


B



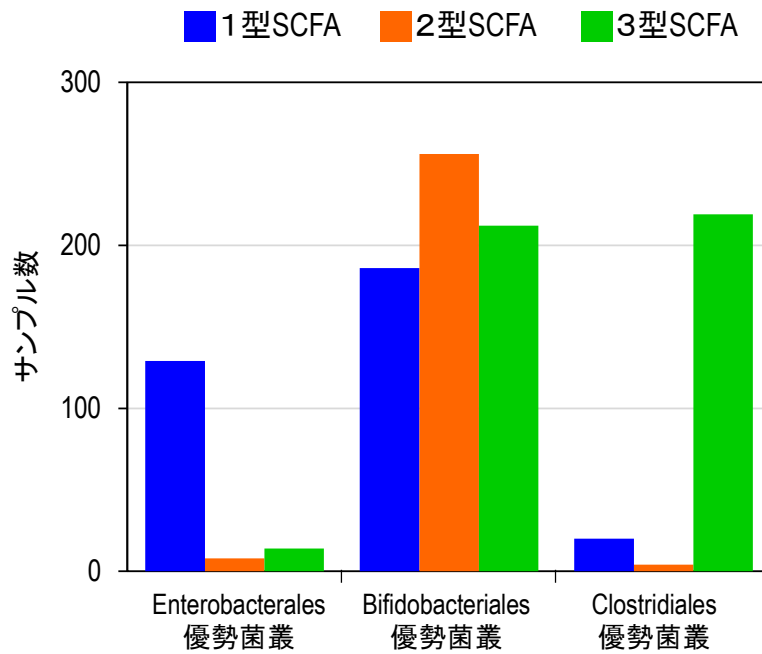
補足図1. 生後2年間の乳幼児腸内細菌叢の変化

12名の乳幼児から提供された1,048サンプルについて、16S rRNA遺伝子配列を基に目レベルの解析を行った。(A) 主要3菌群の占有率の変化。(B) 最優勢菌群の時系列変化。Enterobacteriales優勢の菌叢(水色)からBifidobacteriales優勢の菌叢(赤)、Clostridiales優勢の菌叢(黄)に変化していくこと、これらの移行時期は個人ごとに異なることが確認された。また、Bifidobacteriales優勢からClostridiales優勢への移行は、多くの乳幼児で授乳停止時期(黒三角)と一致していた。



補足図2. 生後2年間の乳幼児SCFAプロファイルの変化

SCFAの濃度のパターンは、酢酸濃度が低くコハク酸濃度が高い状態(1型SCFAプロファイル、青)、乳酸とギ酸濃度が高い状態(2型SCFAプロファイル、橙)、プロピオン酸と酪酸濃度が高い状態(3型SCFAプロファイル、緑)の3タイプに分類された。また、腸内のSCFAのパターンは、1型から2型、3型SCFAプロファイルへと段階的に移行すること、その移行時期は乳幼児ごとに異なっていることがわかった。



補足図3. 腸内細菌叢とSCFAの関連性

Enterobacteriales優勢菌叢が形成されていたサンプルのSCFAプロファイルは多くが1型であり、Clostridiales優勢菌叢が形成されていたサンプルのSCFAプロファイルは多くが3型であった。一方、Bifidobacteriales優勢菌叢の場合は全てのSCFAプロファイルが含まれていたが、2型SCFAプロファイルに該当するサンプルの多くはBifidobacteriales優勢の菌叢が形成されていた。

